[様式D－1]

2017 年 2 月 15 日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
理事長　　喜 多　悦 子 殿

2016年度地域啓発活動助成

活 動 報 告 書

活 動 課 題

地域住民への新たなかたちのがん看護支援

活動団体名：がん看護支援センター

活動者（助成申請者）名：北島昌樹

がん看護支援センター　活動報告書

報告者：北島昌樹

1．リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2016 にいがた

1）日時：2016 年 9 月 18 日-19 日

2）場所：新潟県スポーツ公園

3）対象：がんサバイバー　（運営補助者：大学生　看護学科・理学療法学科）

4）内容

下肢筋力測定・生活指導

下肢筋力測定：functional reach test

timed up and go

生活指導について

下肢筋力測定において顕著に低下している方はみられなかった。しかし、屋外散歩などの日常から活動量を維持することは、全参加者に個別性に合わせて説明を行った。

参加者は、下肢筋力測定に触れる機会はなく「やってもらって面白かった」「年齢より若い値が出たのでうれしかった」という発言が多かった。

6）考察

ほぼ全参加者が実年齢以下の値が出ず、感想からも精神面に対しても良い影響を及ぼしたものと考える。

また、大学生（看護学科 3 名、理学療法学科 8 名）の参加しての感想は「がんを持った方々からこのような笑顔がでるというイメージがなかった」「将来、病院で勤務する前に非常に貴重な時間だった」「今後、ぜひ、後輩にも参加してもらいたい」というものが多く、大学内では味わうことのできないがんサバイバーへの再認識や自己の将来性、次期世代を通しての本活動などの継続を意識する機会であったと考えられる。

哲学カフェについて

がんに関する自身の体験や思いなどを、画用紙に漫画やイラストで描き、語り合った。医療従事者などが助言、指導を行うものではなく、がんサバイバーと一緒になって「がんそのもの」を考え、肯定的・否定的どちらの表出においても共有した。哲学カフェにおいても、ボランティアスタッフとして言語聴覚学科 9 名の大学生が参加して、上記の筋力測定を行った学生と同様の感想が現れた。

7）今後

がんサバイバーからの側面として「若い世代の活動への関心」と大学生からみて「がんサバイバーへの再認識」「将来の医療従事者としての糧」の側面は、お互いに心の活力になったとも考えられる。これらは、地域貢献活動ばかりではないプラス因子であったことか

ら今後も継続していく重要性がある。

２．中学校における「がん看護を通した命の講演」

１）日時：2016 年 11 月 11 日　13：40-15：00

２）場所：新潟市立岡方中学校　体育館

３）対象：全校生徒 110 名

４）内容：添付 PPT（資料 1）に基づき実施

５）講演後の生徒の感想（特に多かった内容）（資料 2）

がん看護専門看護師の存在がすごいと感じた

周囲の人ががんになったら大切にしたい

医師と看護師の違いが分かった

最期の人と自ら命を絶つ人がいることが分かった。命は粗末にしてはいけない

全てのものに命が宿っていると感じた

友達が困っていたら積極的に声をかけてあげたい

私（僕）も将来は人を助ける職業に進みたい

６）考察

がん看護の存在やがん医療のことばかりではなく、そこから「命」の大切さを感じとり、両親や友人など周囲の人に優しくなれる姿を持つことに寄与できた機会ではなかったと思われる。また、ターミナル期の患者さんを見送る場面と自殺未遂で緊急入院した患者さんの話もしたが、中学生はそこから「自殺はいけない」という感想もみられたことから、自殺予防の意識づけにもつながったことも考えられた。

また、がん医療に限定はしなかったが、今回の講演から自らの将来性を考える時間にもつながっていた。

７）今後

今回の中学生の感じ得たことから、当該中学校長や教頭先生から好評価であった。継続的に実施してほしいという要望も出てきていることから、次年度も「がん看護を通した命の在り方」を中学生に伝えていくことは、現在、文部科学省が進めているがん教育へも寄与できるものである。新潟市ばかりではなく、近隣の市町村へも拡大していくことも検討する。

３．地域住民への相談支援活動

相談支援活動のための会議

１）日時：2016 年 8 月 25 日

２）場所：新潟市北区役所

３）担当者：北区健康福祉課　呉井敦（課長補佐）

　　健康増進係　曽我京子（係長）

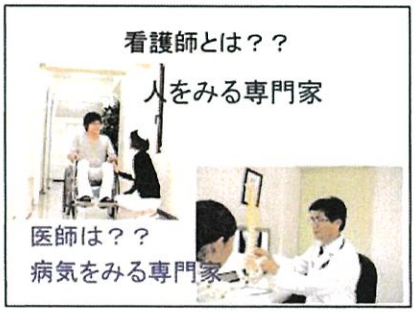
４）内容

支援センター設立予定に関して、今後、地域住民への周知活動への協力を行う。担当者より活動開始後、区役所側も全面的に協力したいとの返答を受ける。

５）現状と今後

区役所側との再度会議は来年度以降となる。現在、作成中のパンフレットが仕上がり次第、次期会議を調整する予定である。区役所側としては、新潟市全区と県庁へのパイプ役も担ってもらえる確約もできており、また、活動に関して「新潟市協賛」の文言も使用して欲しいとの要望もみられたことより、来年度からの活動においては期待できる。

資料１



命とは？？

- みなさんが考える命とは何ですか？？

資料１

Aさんの　子どもからの手紙

Aさん　50歳代の男性

お子さん（女）
・父が北島さんに色々話せてよかったみたいです。
・色々、怖がっていた父をよく看護してもらいました。
・おばあちゃんも看護してもらってありがとうございました。

お子さん（男）
・父の苦しむ姿を見ることが辛かった・・・
・僕が弱っていることに気づいて、先生を通して話を聞いてくれて助かりました。
・僕も父みたいな父親になりたいです。

今の「自分」がある理由

父親の　死　を体験から学んだこと

色々な先生・友人・後輩に出会えたこと

看護の道を選んだこと

患者さん・家族の方々がいたこと

努力してきたこと

みなさんが出来ること

自分通知表

優・良・可・不可

優

今の「自分」がある理由

父親の　死　を体験から学んだこと　恩返し

大切さ　色々な先生・友人・後輩に出会えたこと

看護の道を選んだこと　役に立ちたい

寄り添う　患者さん・家族の方々がいたこと

努力してきたこと　＝　優

みなさんも
ひまわり
を通じて感じたこと
大切にしてください

資料２

平成 28 年 11 月 30 日（水）　◆第９号◆　新潟市立岡方中学校

岡方中だより

自主　協和
気力　創造

1年生　44名
2年生　34名
3年生　32名
全校生徒数 110名

「命について考える」　新潟医療福祉大学准教授　北島昌樹さん

北島　昌樹　准教授

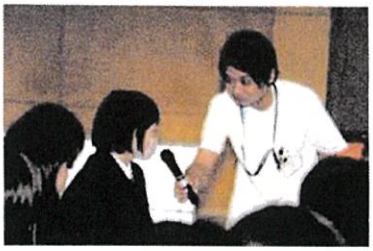
11月11日（金）生き方講演会を実施しました。講師は新潟医療福祉大学准教授の北島昌樹さんです。北島さんは、日本ではまだ数が少ない、がん専門の看護師として、死に直面する患者さんと、その家族と日々向き合っています。命とは何か、生きるとはどういうことか。答えの出ないこの問いを常に考えながら、少しでも患者さんや家族の辛さを和らげる努力をしているそうです。生徒はあまり接する機会のない話題にやや戸惑いながらも、北島さんの語りかけに真剣に耳を傾けていました。

（生徒の感想）

○僕は将来、医療とは違う人を助ける仕事に就きたいと思っています。そこで今日聞いた「命を大切にする」「優しさをもって人に接する」ことを忘れないでいたいと思います。

○私は今日の生き方講話を聞いて、「命はいつ終わってしまうかわからない。1日1日を大切に生きた方がいい」ということが印象に残りました。毎日何気なく生きているだけでは、余命宣告された人に失礼だと感じました。

○北島さんは、高校生でお父さんを亡くして、辛かっただろうと思いました。でも北島さんは辛い、悲しいという感情だけで終わらせず、お父さんが以前から言っていた医療系の道に進み、日本でも5人しかいない男性のがん専門の看護師という、誰でもできるわけじゃない仕事に就いてすごいと思いました。更に、それだけじゃなく、周りの人に感謝することも忘れず人の気持ちを大切にできる優しい人だと感じました。



○今日の講話で、私は「看護師」「医師」という仕事にとても憧れをもちました。私は元々医療系の仕事に就き、人とたくさん関わっていきたいという夢がありました。ですが今日の講話で改めて考えさせられ、絶対この夢を叶えたいという意志を持ちました。北島先生がおっしゃっていたように、この仕事には言葉にできないほど難しいことがたくさんあると思います。患者の複雑な思いを直接聞くことは本当に辛いと思います。自分の心もとても複雑になると思います。だからこそ、私はこの仕事を将来自分の仕事にしたいと思います。

25 日オープンスクール

岡方第一、岡方第二の小学６年生が入学を前にして、岡方中学校を見学に来てくれました。前半は岡方中学校の１年生が、出身小学校別に分かれて、岡方中学校の校歌を６年生に教えました。１年生は、先輩となる自覚をもって、6年生を熱心に指導しました。６年生も岡方中学校の一員として、

〒950-3365 新潟市北区太子堂 104 番地(Tel025-387-3338,Fax025-387-3232,ホームページ http://www.okachu@city-niigata.ed.jp/)

資料（イベントの光景）

がん支援研究センター

身体計測
先着
ジュース
プレゼント

リレー・フォー・ライフ
ジャパン にいがた
新潟医療福祉大学

資料（イベントの光景）

がん哲学カフェ
やってます!!
みんなでおえかきを
したり、おかしを食べたりと
リラックスしながら、お話を
してみませんか？
ぜひ、お気軽にお立ち寄り
下さい
2016/09/18 13:53

資料（イベントの光景）